

鉢形城跡(大里郡寄居町)

築城年代: 文明8年(1476年)、築城者: 長尾景春

縄張図/鉢形城歴史館のパンフレットより

鉢形城の歴史

鉢形城跡は、戦国時代の代表的な城郭跡として、昭和7年に国
城の中心部は、荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の上に築かれて
しています。この地は、交通の要衝に当たり、上州や信州方面を
鉢形城は、文明8年(1476)関東管領であった山内上杉氏の領
と伝えられています。後に、この地域の豪族藤田康邦に入城した
四男氏邦が整備拡充し、現在の大きさとなりました。関東地方に
る鉢形城は、北関東支配の拠点として、さらに甲斐・信濃からの
要な役割を担いました。

天正18年(1590)の曾臣秀吉による小田原攻めの際には、後
て、前田利家・上杉景勝等の北国軍に包囲され、攻防戦が展開
におよぶ籠城の後、北条氏邦は、6月14日に至り、城兵の節制
開城後は、徳川氏の関東入国に伴い、家康配下の成瀬正一・日
この地を統治しました。

景指定名勝 玉定
水のゆるやかに流れる様を玉の色に見立てて、
玉定と名付けられた風光明媚な景勝地です。

樹木園が林
約680種もの国内・外国産の樹木を見ることが
できます。

町の花 カタクリ群生地
3月下旬~4月上旬まで
カタクリの花が楽しめます。

町指定天然記念物
鉢形城の板・エドヒガン

町指定名勝 四十八堂
深沢川の深淵に自然の摂理が生み出した奇景です。

まず、天然の要害である荒川の対岸から本曲輪のエリアを見てみよう/右手に「名勝 玉淀 埼玉縣」と記された標柱が立つ



荒川の流が見えてきた



対岸が鉢形城跡で、中央の絶壁の上部が本曲輪の中心部ようだ/左端が笹曲輪、右手に二の曲輪・三の曲輪と続く



その右手を見たところ/左手の少し川が食い込んでいる辺りは、二の曲輪(左手)と三の曲輪(右手)の間の堀が落ち込んでくる所ようだ



左手を見ると笹曲輪の手前に架かっている正喜橋が見える [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その正喜橋の上から鉢形城跡を見たところ/右奥の絶壁の上部が本曲輪の中心部のようだ



さて、ここが鉢形城歴史館/南側の外曲輪のエリアに建っている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



ここが鉢形城歴史館



これは城内の各所に立っている鉢形城跡曲輪配置図/鉢形城歴史館のパンフレットと若干表記が違っているが、ここではパンフレットに従うとする



これは鉢形城歴史館で展示されている鉢形城跡のジオラマ/南東側から見たところ



さて、鉢形城歴史館から時計回りに、伝大光寺曲輪→大手→伝逸見曲輪→諏訪神社(伝諏訪曲輪)→三の曲輪→伝秩父曲輪→二の曲輪→本曲輪→伝御殿曲輪→伝御殿下曲輪→笹曲輪→搦手橋→長久院跡→外曲輪へと進んでみよう



👉
ここから

ここは鉢形城歴史館の南側を通る連雀小路/この先を左手に入ると鉢形城歴史館



振り返って、まず、前方の深沢川を渡って泉水坂へと進む



ここが深沢川に架かる橋



この深沢川を城内への天然の要害として取り込んでいる

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



この坂が泉水坂/前方左手が伝大光寺曲輪/右手は伝逸見曲輪



ここが伝大光寺曲輪

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



左手から見たところ



斜面の上部から見下ろしたところ



これは伝大光寺曲輪から伝逸見曲輪方向を見たところ



正面をアップで見たところ/左手のマウンドは弁天社跡/この伝逸見曲輪の前方奥には三の曲輪(左手)、二の曲輪(右手)が見える
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



右手を見たところ/深沢川(右下)に沿って土塁が延びている



左手を見たところ/大手から城内に入った伝逸見曲輪(正面)の左手には、伝大光寺曲輪(さらに左手)との間の深い堀が巡る



正面が伝逸見曲輪(右手)と伝大光寺曲輪(左手)の間の深い堀



反対側からその堀を見たところ/左手が伝逸見曲輪、右手が伝大光寺曲輪



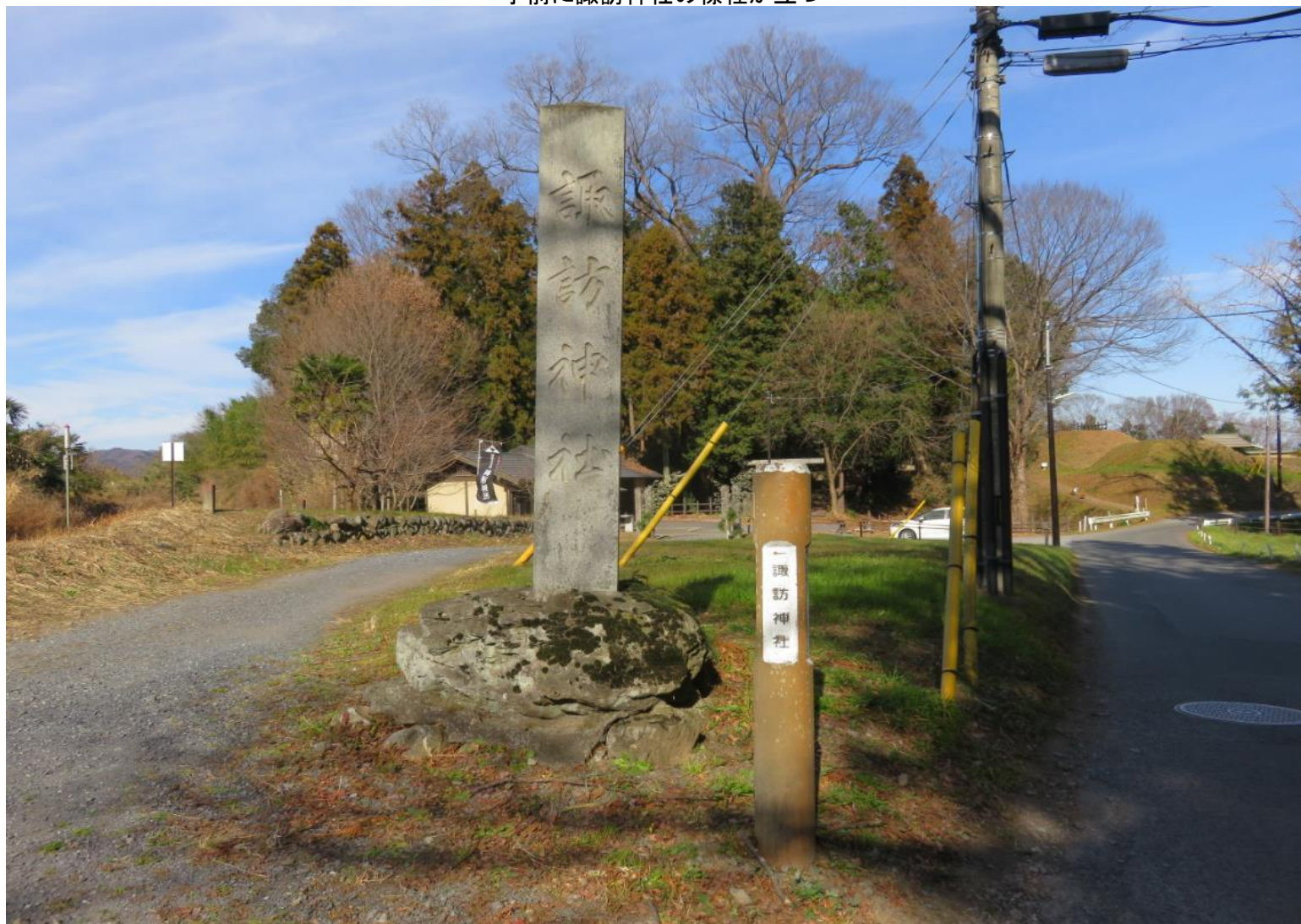
後ろを振り向くと、JR八高線の踏切がある



その右手を見たところ/こちらが城の大手(大手口)/前方には鳥居も見える



手前に諏訪神社の標柱が立つ



その右手を見ると、ここが大手口で、伝逸見曲輪への土橋が見える/土橋の両サイドは先程の堀が回り込んでいる



アップで見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



右サイドからその土橋を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これは土橋上で左手の堀(みたら池という水堀となっている)を見たところ



こちらは右手の堀を見たところ/前方で左手に折れて伝逸見曲輪と伝大光寺曲輪の間の堀となっている



その堀を反対側から土橋方向に見たところ/右手が伝逸見曲輪

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、先程の踏切で左手を見ると正面前方に堀跡が見える/その左手が伝大光寺曲輪で、線路が曲輪内を横断している



その堀跡をアップで見たとこ/左手が伝大光寺曲輪/なお、正面前方の小高い山が車山と思われる/豊臣軍の本田忠勝が車山から城内に大砲を打ち込んだことで、北条軍の戦意が失せたと云う/大阪夏の陣も同じだね！
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その堀跡の反対側から見たところ/堀跡はここで右手に折れている/前方が踏切



その右手に折れた堀跡を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、ここが大手口から土橋を渡って入った伝逸見曲輪の入口部分



そこから伝逸見曲輪を見たところ/曲輪の形状は複雑に折れが連続し、低い部分は水堀だったようだ
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その左手を見たところ/遠方は三の曲輪(左手)と二の曲輪(右手)



同じく右手を見たところ/マウンドになっている部分は水堀に浮かぶ弁天社跡/左手に深沢川に沿った土塁、右手に伝大光寺
曲輪が見える



振り返って伝逸見曲輪の入口部分を見たところ



これは伝逸見曲輪の中心部辺りに移動して弁天社跡を見たところ/その背後に伝大光寺曲輪が見える/右手は伝逸見曲輪の入口部分
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その左手を見たところ/左手が深沢川に沿った土塁



更にその左手を見たところ/左手のマウンドを取り巻く水堀は「おくり泉水」と呼ばれるようだ



その左手を見たところ



更に左手には、遠方に三の曲輪(左手)と二の曲輪(右手)が見える



これはその左手を見たところ/伝逸見曲輪の複雑な形状が見て取れる



更に左手を見たところ/前方が伝逸見曲輪の入口部分



さて、これは深沢川に沿った土塁/右下が深沢川



土塁上を前方に進む



右下の深沢川を見下ろしたところ



ここが「おくり泉水」

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



振り返って土塁上で、進んできた方向を見たところ/左下が深沢川



土塁の下で、同様に見たところ/水堀だったエリアは今でも湿地状態で水路が出来ている



深沢川へ流れ落ちていく方向を見たところ



「おくり泉水」から深沢川へ下っていく地形を見たところ [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、諏訪神社へ行ってみよう



この上部に諏訪神社があるのだが、足元の周囲には堀が巡っている



右手の堀を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その左手を見たところ/諏訪神社への登り口は土橋である



土橋の先の堀を見たところ



その堀越しに、諏訪神社の鎮座する上部を見上げたところ [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、諏訪神社の鎮座する上部に登ろう/左手は土塁

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



こんな塩梅の土塁が境内を巡っている



これが諏訪神社社殿



実はこの諏訪神社のあるエリアは、三の曲輪の馬出しの機能を有し、「諏訪曲輪」とも言われるようだ



す わ じん じゃ
諏 訪 神 社

諏訪神社は、武州日尾城主（小鹿野町）諏訪部遠江守が鉢形城の家老となって出仕したとき、信州にある諏訪神社を守護氏社として分祀奉齋しました。

やがて天正18年（1590年）鉢形城の落城により、この近辺から北条氏の家臣たちが落ちていき、人々も少なくなりました。しかし城下の立原の人たちは鎮守様と崇敬し、館の跡を社地として今日の神社を造営したものです。

本殿は宝暦年間、その他の建造物は天保年間に造営されていて、年に三度の大神祭を中心に、人々の心のよりどころとなっています。

なんどかの台風にあいましたが、空堀御手洗池に深い面影を落している榎の大木は、400年にわたる歴史の重みを静かに語りかけているようでもあります。

祭神は建御名方命、相殿に誉田別命が祀られています。これは明治42年萩和田の八幡神社が合祀されたものです。

寄居町・埼玉県



左手の土塁を見たところ



土塁上で、社殿の後ろに回り込んでいる土塁を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



こな塩梅



その先を見たところ

(クリックしてビデオを見る)



これはその土塁の背後に回っている堀の向こうから社殿方向を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その左手を見たところ/右手からの土塁と堀は、ここで土橋によって途切れている/手前は城外のエリア



これは右手の堀を覗き込んだところ



これは諏訪曲輪から三の曲輪方向を見たところ/手前は土橋/両サイドには堀が巡っている
([クリックしてビデオを見る](#))



右手の堀を見たところ



左手の堀を見たところ/前方は三の曲輪の石垣土塁



さて、ここから三の曲輪へと進もう/前方に四脚門が見える/左奥が諏訪曲輪のあった所



「三の曲輪」の標柱が立っている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



右手を見ると三の曲輪(左手)と二の曲輪(右手)の間の堀がある

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



正面がその堀越しに見た二の曲輪/広大な面積だ



その右手を見たところ/この堀は当時は右前方で深沢川に落ち込んでいた

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



更に三の曲輪へと進む/四脚門及び築地塀・植栽で区画されたエリアが三の曲輪ということのようだ
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



右手の一段上のエリアが三の曲輪で、左手はその虎口のエリア/左前方の虎口を進むと、先程の諏訪曲輪への土橋に繋がる



さて、このエリアが三の曲輪/奥の少し高くなった付近(四阿の見えるエリア)は伝秩父曲輪とも呼ばれるようだ
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



右手を見ると「井戸」と記された標柱が立っている



その井戸を覗き込んだところ



これはその付近から二の曲輪を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その右手を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



同じく左手を見たところ/正面の木々の所はマウンド(土塁)となっており、その上には稲荷神社が鎮座している



更に左手を見たところ/正面は馬出し/右手の二の曲輪の虎口から繰り出し、左手の三の曲輪へ侵入した敵を攻撃するための足掛かりとしての機能を持つ
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



左手を見たところ



左側から見たところ/馬出しの背後は荒川の断崖



そこで右手を見たところ



同じく左手を見たところ/この先は豎堀となって荒川に落ち込んでいるようだ



説明板

うま だし 馬 出

「馬出」とは、虎口（出入り口）を守るとともに、内部の城兵の動きを悟られないようにすることで、出入りを安全かつ円滑に行うことを目的に造られた施設です。鉢形城跡には馬出と考えられる遺構が多く残っています。

この遺構は、伝承では「御金蔵」と呼ばれていましたが、その形状や調査の結果から、「馬出」と判明したものです。西・南・東の三方を薬研堀で掘り切り、北側は荒川の崖になっています。堀の深さは、西側で約7.4 m、内部の広さは、間口6.5 m、奥行き12 mで、門の礎石や雨落ちの石列、石敷き排水溝などが確認されています。

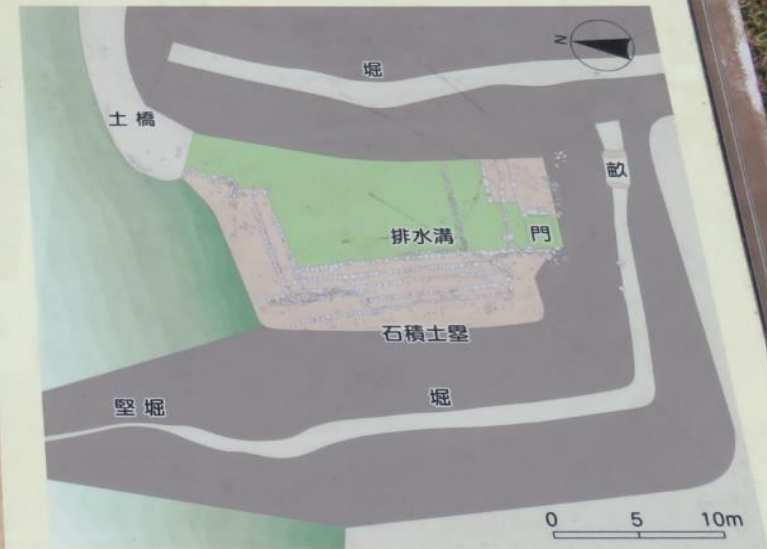
石積土塁は、北・西・南側に築かれ、西側が最も長く、全長約17.5 m、高さ約2.3 m、馬路（上幅）約2.3 m、敷（下幅）約6.9 mで、5段の石積みが施されています。北側は3段になっていますが、発掘調査によって、当初は5段の石積みであったことが判明しました。これほど遺構の状態が良好に残っているのは、大変貴重で数少ない例です。この馬出は、平面形が四角い形をしていることから「角馬出」と呼ばれ、後北条氏系城郭の特徴といわれています。



石積土塁（いしづみどるい）



馬出空撮写真（うまだしくうさつしゃしん）



馬出全測図（うまだしぜんそくず）

北条流の「角馬出し」で、「御金蔵」と呼ばれていたらしい



うま
馬 出し



「馬出」とは、虎口（出入口）を守るとともに、内部の城兵の動きを悟られないようにすることで、出入りを安全かつ円滑に行うことを目的に造られた施設です。鉢形城跡には馬出と考えられる遺構が多く残っています。

この遺構は、伝承では「御金蔵」と呼ばれていましたが、その形状や調査の結果から、「馬出」と判明したものです。西・南・東の三方を薬研堀で掘り切り、北側は荒川の崖になっています。堀の深さは、西側で約7.4 m、内部の広さは、間口6.5 m、奥行き12 mで、門の礎石や雨落ちの石列、石敷き排水溝などが確認されています。

石積土塁は、北・西・南側に築かれ、西側が最も長く、全長約17.5 m、高さ約2.3 m、馬踏（上幅）約2.3 m、敷（下幅）約6.9 mで、5段の石積みが施されています。北側は3段になっていますが、発掘調査によって、当初は5段の石積みであったことが判明しました。これほど遺構の状態が良好に残っているのは、大変貴重で数少ない例です。この馬出は、平面形が四角い形をしていることから「角馬出」と呼ばれ、後北条氏系城郭の特徴といわれています。



それでは馬出しへ渡ってみよう



これが石積土塁



正面から見たところ



左手を見たところ/ここが門跡



これは石積土塁の上から、二の曲輪(左手)と三の曲輪(右手)の間の堀を見たところ



同じく、二の曲輪の稲荷神社の鎮座する土塁方向を見たところ



下へ降りて右手を見たところ/堀底に一条の畝が見て取れる/北条流の堀にはこのような畝が縦横に並び、障子堀と呼ばれる



同じく左手を見たところ/こちらから右手に回り込むと二の曲輪の虎口へと至る/前方下に荒川の流が見える



この通路は土橋となって右上の二の曲輪へと続いている/左下は荒川の断崖



左手の荒川を見下ろしたところ



二の曲輪の虎口へと少し登る



そこで右手の堀を見たところ



ここが二の曲輪の虎口



虎口を入ると二の曲輪が広がっている



振り返って虎口を見たところ/両サイドは土塁



左手を見ると、これが稲荷神社/土塁の上に鎮座している

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、三の曲輪に戻り、伝秩父曲輪のエリアを見てみよう/前方の四阿(あずまや)の建っている辺りがそのエリアと思われる



前方が四阿/手前に説明板が見える/左手には石積土塁がある



説明板と、正面は復元石積土塁

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



庭園と石積土塁

この場所は、鉢形城跡の三の曲輪の中でも最も高いところで、平成10～13年度に発掘調査しました。伝承では、北条氏邦の重臣である秩父孫次郎が守った秩父曲輪といわれています。

この曲輪は、門と土塀、土塁・堀によって区画され、その内部は大きく二つに分かれます。

そのひとつは庭園が発見された区域で、池を囲むように建物が配置されていました。発掘調査では掘立柱建物跡が数棟確認されましたが、礎石建物も建てられていたと思われます。天目や茶入などの茶道具や、後北条氏の中核的な支城でしか発見されていないカワラケなどが出土していることから、宴会や歌会などを行う特別な空間であったと思われます。

それに対し、庭園の区域よりも一段低い南側の空間では、囲が裏の存在を示す自在鉤や鍋などの生活用品が出土しており、日常生活の空間と思われます。

この曲輪の土塁は、全長約100m、高さは約4.2mで、馬踏（上幅）約6m、敷（下幅）約12mの規模をもち、鉢形城内でも最も良く残っていました。調査の結果、内側には河原石を3～4段の階段状に積上げていることが確認され、雁木と呼ばれる階段もつくられていました。裏込石がなく、高さも一段が1m程度で、いわゆる江戸時代の城の石垣とはその規模・技法等において見劣りしますが、関東地方の石積技術の有様や石積を専門とする技術者の存在を示す重要な発見となりました。

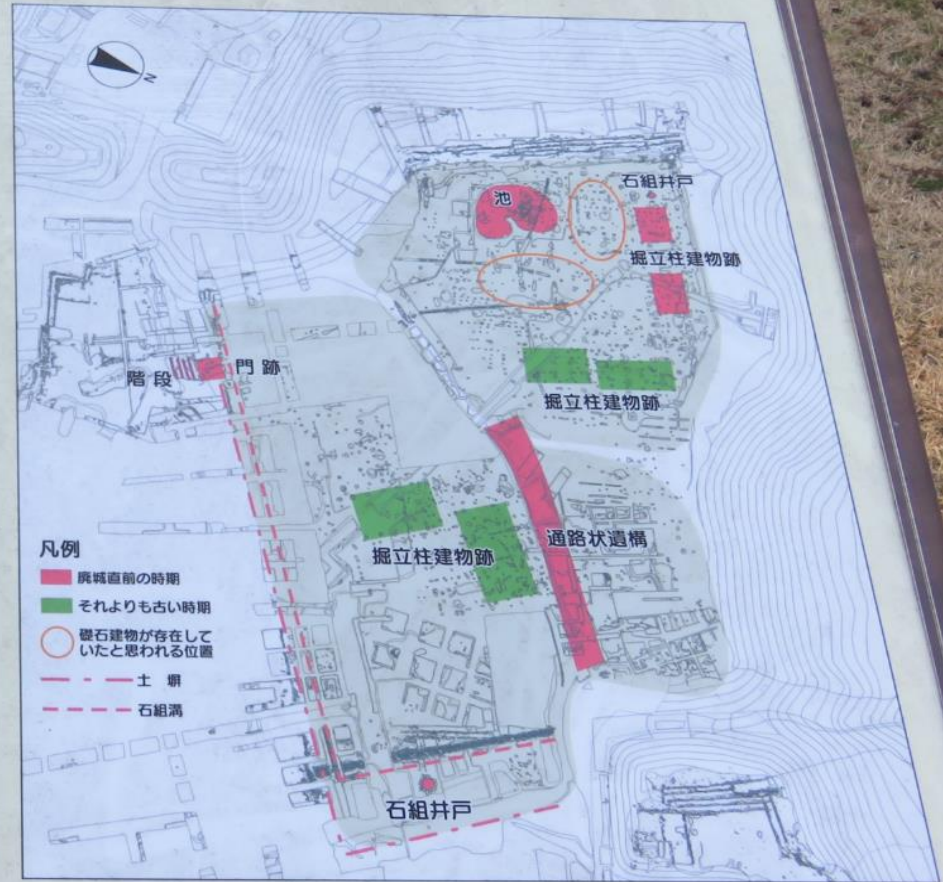
整備事業では、鉢形城が廃城になる直前の時期を基準に、庭園と石積土塁、井戸・石組溝を復元し、2棟の掘立柱建物跡をそれぞれ四阿と丸太で表示しています。



石積土塁（いしづみどるい）



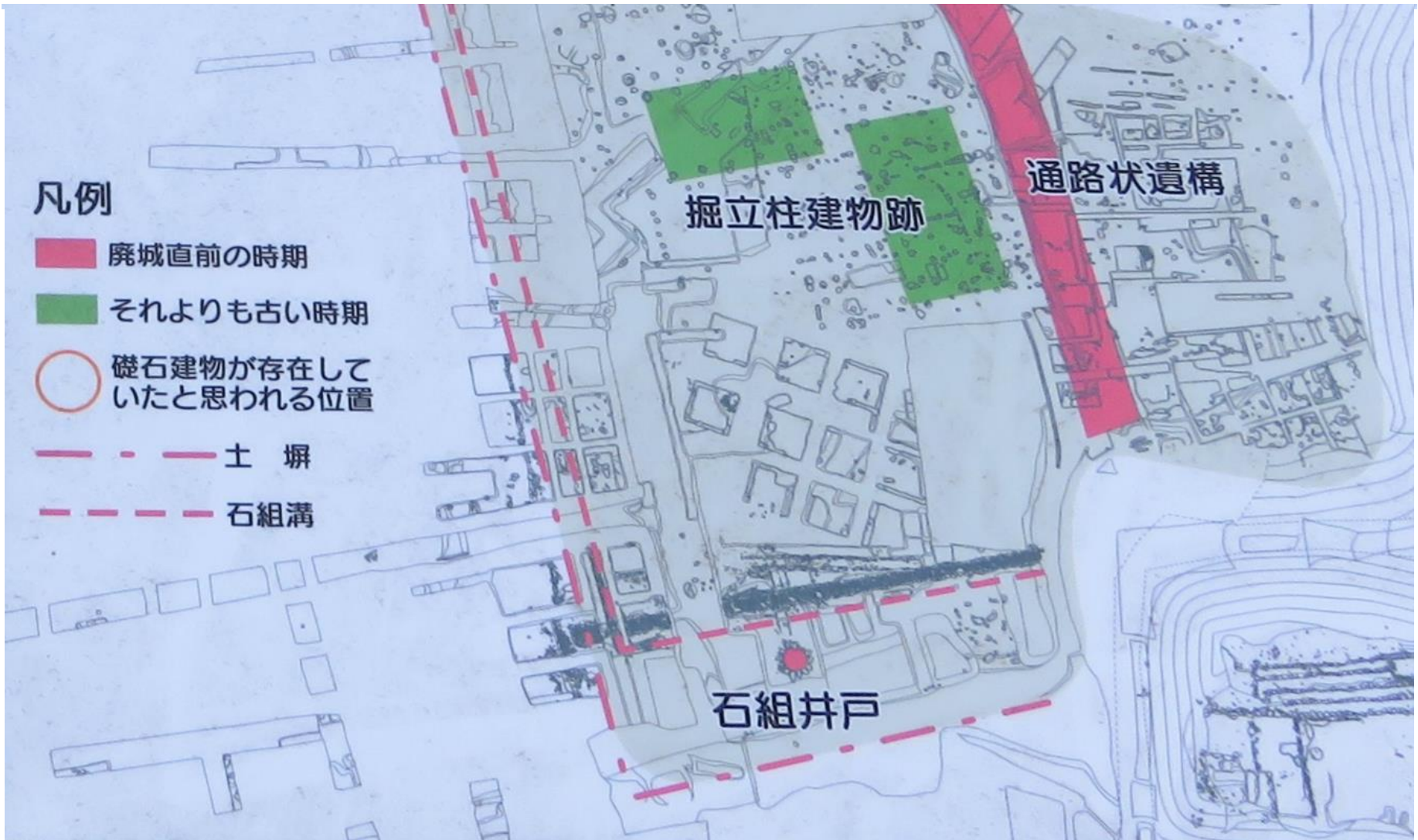
池跡（いけあと）



発掘調査全体図（はくつちょうさぜんたいず）

赤の点線が石組排水溝跡







てい えん いし づみ ど るい 庭園と石積土塁



この場所は、鉢形城跡の三の曲輪の中でも最も高いところで、平成10～13年度に発掘調査しました。伝承では、北条氏邦の重臣である秩父孫次郎が守った秩父曲輪といわれています。

この曲輪は、門と土塀、土塁・堀によって区画され、その内部は大きく二つに分かれます。

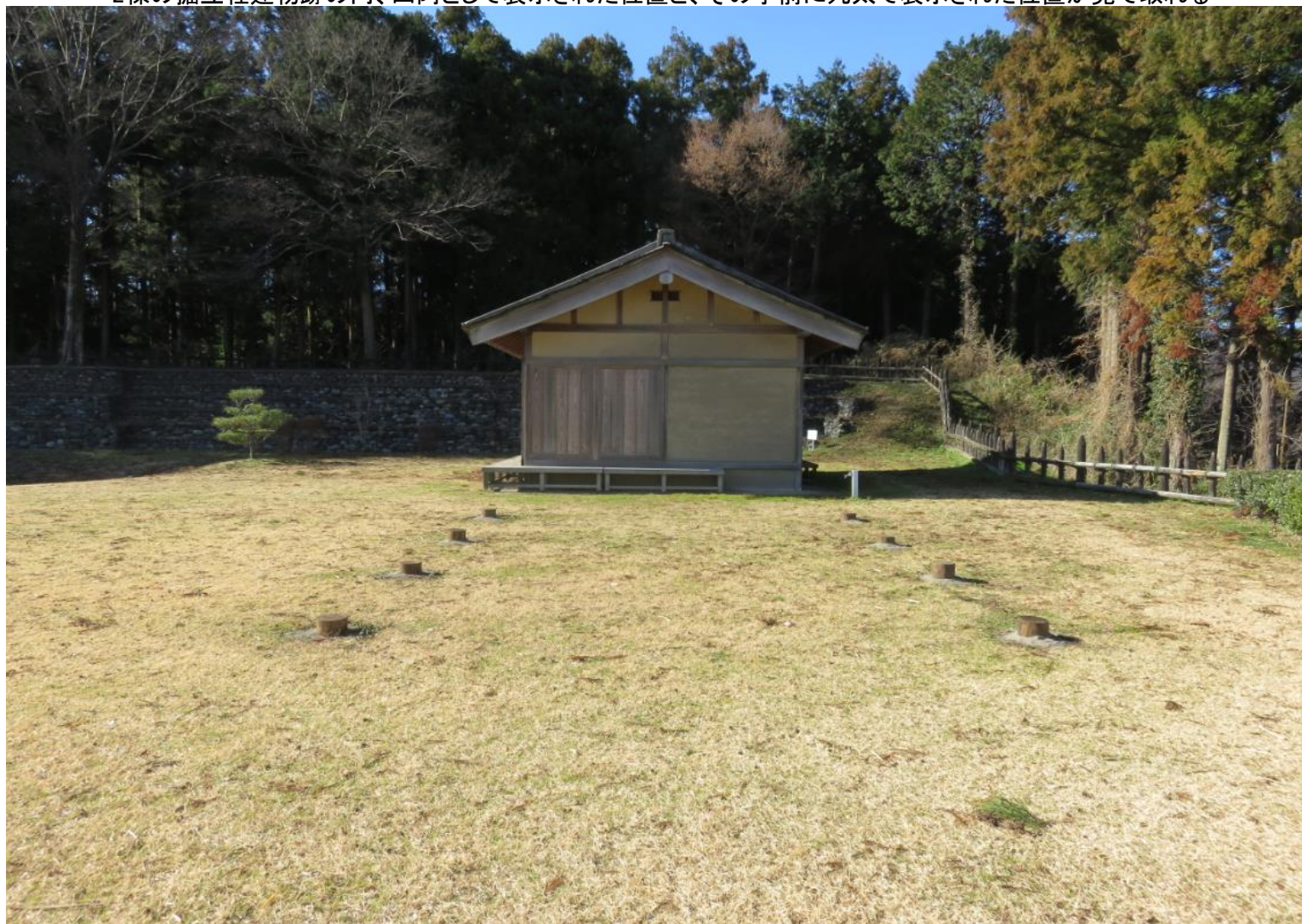
そのひとつは庭園が発見された区域で、池を囲むように建物が配置されていました。発掘調査では掘立柱建物跡が数棟確認されましたが、礎石建物も建てられていたと思われます。天井や茶入などの茶道具や、後北条氏の中核的な支城でしか発見されていないカワラケなどが出土していることから、宴会や歌会などを行う特別な空間であったと思われます。

それに対し、庭園の区域よりも一段低い南側の空間では、囲炉裏の存在を示す自在鉤や鍋などの生活用品が出土しており、日常生活の空間と思われます。

この曲輪の土塁は、全長約100m、高さは約4.2mで、馬踏（上幅）約6m、敷（下幅）約12mの規模をもち、鉢形城内でも最も良く残っていました。調査の結果、内側には河原石を3～4段の階段状に積上げていることが確認され、雁木と呼ばれる階段もつくられていました。裏込石がなく、高さも一段が1m程度で、いわゆる江戸時代の城の石垣とはその規模・技法等において見劣りしますが、関東地方の石積技術の有様や石積を専門とする技術者の存在を示す重要な発見となりました。

整備事業では、鉢形城が廃城になる直前の時期を基準に、庭園と石積土塁、井戸・石組溝を復元し、2棟の掘立柱建物跡をそれぞれ四阿と丸太で表示しています。

2棟の掘立柱建物跡の内、四阿として表示された位置と、その手前に丸太で表示された位置が見て取れる



丸太で表示された掘立柱建物跡の位置



四阿の背後にも井戸があった/左手は石積土塁



こんな塩梅



これはそこから左手に石積土塁を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



上の段で見たところ/石積土塁の右下は、右前方の諏訪曲輪から続く深い堀となっている



その深い堀を見下ろしたところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これは石積土塁の上から、振り返って三の曲輪を見たところ/右手前に小石が散見される



これがそれで、ここは庭園の池跡のようだ



その池の水路が前方に続いている



反対側から見たところ



さて、前方が三の曲輪の復元四脚門/右手が復元石積土塁、左手は復元築地塀



四脚門から右手の石積土塁を見たところ



右に折れた先の石積土塁を見たところ



左手の築地塀の先を見たところ/中央に溝が走っており、「石組排水溝」と記された標柱が立つ
([クリックしてビデオを見る](#))



反対側からその排水溝跡を見たところ/手前で右手に折れている



右に折れた先はこんな塩梅



外側から見た四脚門



その左手を見たところ/前方が諏訪曲輪への虎口/左手が石積土塁/右手も先程の石積土塁/虎口左脇の土塁の上には、「櫓」が建っていたと云う/正面手前の植栽で表示された部分は「葎(しとみ)」と呼ばれる目隠しがあったようだ/説明板がある

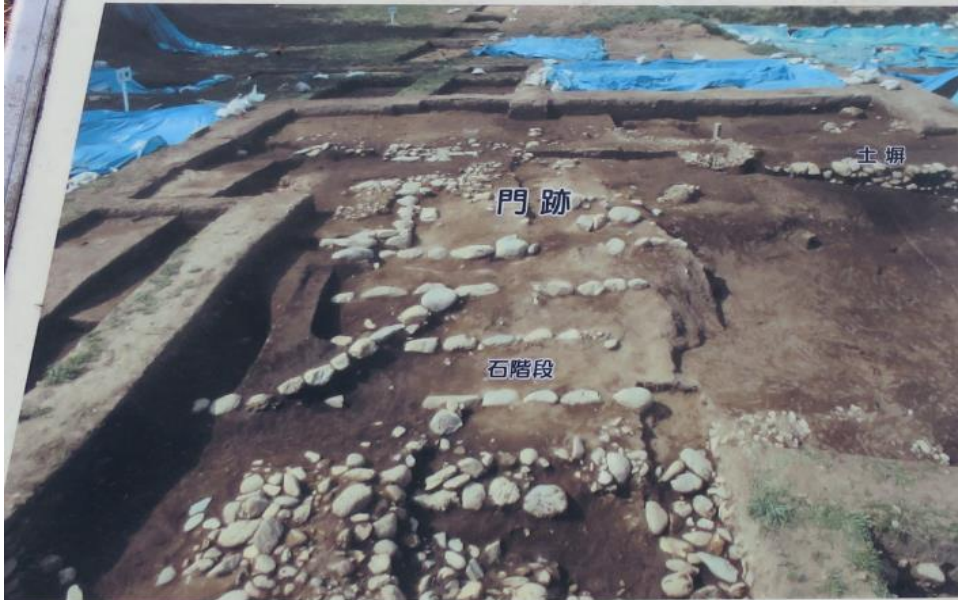


「櫓」と「葺」に挟まれた空間は「武者溜り」であったとされる

こ ぐち
▲ 虎 口

「虎口」とは、出入り口のこと、「小口」とも書きます。江戸時代塙保己一によって編纂された武家放実の書である「武家名目抄」では、「城郭陣容の尤も要害（要害）なる処を、猛虎の兩牙にたとへて虎口というなり」と説明しています。

三の曲輪では、伝秩父曲輪から、諏訪神社（馬出）へ至る虎口の空間を全面発掘調査しました。伝秩父曲輪は、一段高くなっており、幅2間半（約5m）で6段の階段が確認されました。階段の最上段には、門が確認され、東側は壊されていましたが、礎石の一部と雨だれによってできた溝が確認されましたので、間口は1間半（約3m）と想定しました。階段の最下段の西側には石列が一行確認され、階段を隠す「葺」の一部と思われます。



門跡と石階段（もんあとといしかいだん）



虎口遠景（こぐちえんけい）

また、この空間は、畑になっていましたが、発掘調査の結果、畑として耕されたために、上部が削られた石積土塁が検出されました。この土塁が北向きに折れる部分は、最上位面が広くなることから、ここに「櫓（矢倉）」が建てられていた可能性があります。この「櫓」と「葺」に挟まれた空間は、城兵が一時待機する場所である「武者溜り」と思われます。

ここから土塁の間を通り諏訪神社（馬出）に向かう部分が虎口です。ここには、門のあった可能性が極めて高いのですが、発掘調査では確認できませんでした。柱穴が確認されなかったため礎石建ちの門であった可能性があると思われま。

「虎口」は、防御の要であり、出撃しやすくすることで、攻撃性を高めることができるため、城郭の発達段階を良く表す部分です。後北条氏系城郭の場合には、虎口の前に更に「角馬出」を設けることが特徴です。鉢形城内には、さまざまな形態の虎口があります。

虎口を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これはその虎口を出て諏訪曲輪への土橋を見たところ/土橋の両サイドは堀



左手を見たところ



右手を見たところ



土橋の上から左手の堀を見たところ



同じく右手の堀を見たところ/右上は三の曲輪の石積土塁



振り返って虎口を見たところ



左手の石積土塁



右手の石積土塁/この上に櫓が建っていたと云う



虎口から武者溜りに入ったところ/正面の植栽表示が目隠しの葎



これは櫓が建っていたと云う石積土塁上から三の曲輪(左手)への伝逸見曲輪のエリアを見たところ



その右手、伝逸見曲輪のエリアを見たところ/手前は、みたら池



その右手を見たところ/前方は大手のエリア



更にその右手を見たところ/堀の向こうが諏訪曲輪



その右手は正対する土塁/その下が虎口



もう一度、内部から虎口方向を見たところ/左手の石垣土塁上に登ってみる
([クリックしてビデオを見る](#))



武者溜りの空間を見たところ



右手に藪と四脚門を見たところ



さて、これは二の曲輪の土塁(右手)と三の曲輪(左手)との間の堀を見たところ/土塁と堀の間の広く長い空間は城兵が守備につく空間と云う/左手前に説明板がある [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



二の曲輪には鍛冶工房があったらしい

二の曲輪の調査と堀と土塁

二の曲輪は、平成9年度に発掘調査を実施しました。その結果、掘立柱建物跡・工房跡・土坑・溝などが検出されました。柱穴は位置の確認だけを行ない、工房跡や土坑の一部、溝などを調査しました。

工房跡は3軒確認されましたが、埋まっていた土の中の炭や鉄滓（鉄のカス）、さらに鑪の羽目（鍛冶炉の通風口）が出土していることから、鍛冶工房と判断しました。

調査によって、現在城山稲荷神社の参道になっている土塁の他に、二の曲輪と三の曲輪を区画する堀に沿って、土塁の基礎の部分が確認されました。前者は地山を掘り残したもので、後者は盛土でつくられた土塁です。また、堀と土塁の間には、広く長い空間が確認されており、敵に攻められた際に城兵が守備につく空間と思われます。鉢形城には多くの土塁が良く残っていますが、中でも三の曲輪の土塁は、石積土塁として注目されます。

二の曲輪と三の曲輪を隔てる堀の発掘調査は、平成9年度と11年度の2回にわたって実施しました。その結果、最大上幅約2.4m、深さ約1.2mの大規模な堀であることが判明しました。また、堀の底には、「敵」と呼ばれる高まりが発見されました。この「敵」は、敵兵が堀底で動き回るのを防ぐためのものであるという

説と、堀底の水を一定に保つためのものという説があります。このような、敵をもつ堀を「障子堀」といい、小田原城、岩槻城や深谷城などの後北条氏系城郭の特徴とされてきましたが、近年の発掘調査例では、後北条氏の時代より前から「障子堀」が用いられていたようです。

二の曲輪の土塁は、高さが不明であることから、位置を示すことを目的に低く復元しています。また、堀は、遺構面の保護と安全対策から堀底を高くしています。



二の曲輪発掘調査全景（にのくるわはくつちょうさぜんけい）



二・三の曲輪間堀内敵検出（に・さんのくるわかんほりないうねけんしゅつ）

堀に近づいて見たところ/この堀底には畝が造られていたと云う



これは二の曲輪で、三の曲輪方向に土塁を見たところ/当時の土塁はもっと高かったらしい
([クリックしてビデオを見る](#))



別の角度から/右手の木々の所は稲荷神社



再び、稲荷神社/城山稲荷神社というそうだ



神額は稲荷神社となっている



振り返って見たところ/左手には土塁が続いている/左下は荒川



アップで見たところ



土塁を見たところ



反対側から土塁を見たところ/前方が稲荷神社



少し退いて、その土塁を見たところ/土塁の背後が荒川



これは稲荷神社(右手)が鎮座する土塁の脇の虎口状の所/この先が、城兵が守備につくという土塁と堀の間の広く長い空間となっている



左手の土塁上で左手を見たところ



そこでこの曲輪のエリアを見たところ/相当の兵がスタンバイ出来る広さだ



振り返って稲荷神社の鎮座する土塁方向を見たところ



これはそこから三の曲輪と二の曲輪の馬出しに架かる木橋方向を見たところ
([クリックしてビデオを見る](#))



ここに、二の曲輪の標柱があった

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その左手を見たところ/一段下がっているが、このエリアも二の曲輪/右手の中段は通路状になっている



反対側から見たところ/「通路」と記された標柱が立っている



これがその「通路」のようだ



その一段下がった二の曲輪から、三の曲輪方向を見たところ [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、ここは二の曲輪の、伝逸見曲輪方向の馬出し



標柱が立っている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



左下には深沢川が流れている



右手を見たところ



これは右手から馬出しを見たところ



アップで見たところ



右手におくり泉水のエリアを見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、次はこの曲輪と本曲輪ゾーンを区画する堀跡→本曲輪・伝御殿曲輪・伝御殿下曲輪→搦め手→笹曲輪→搦手橋→長久院跡→馬出し→外曲輪へと進んでみよう



ここから

正面の道路は二の曲輪(左手)と本曲輪ゾーン(右手)を区画する堀跡

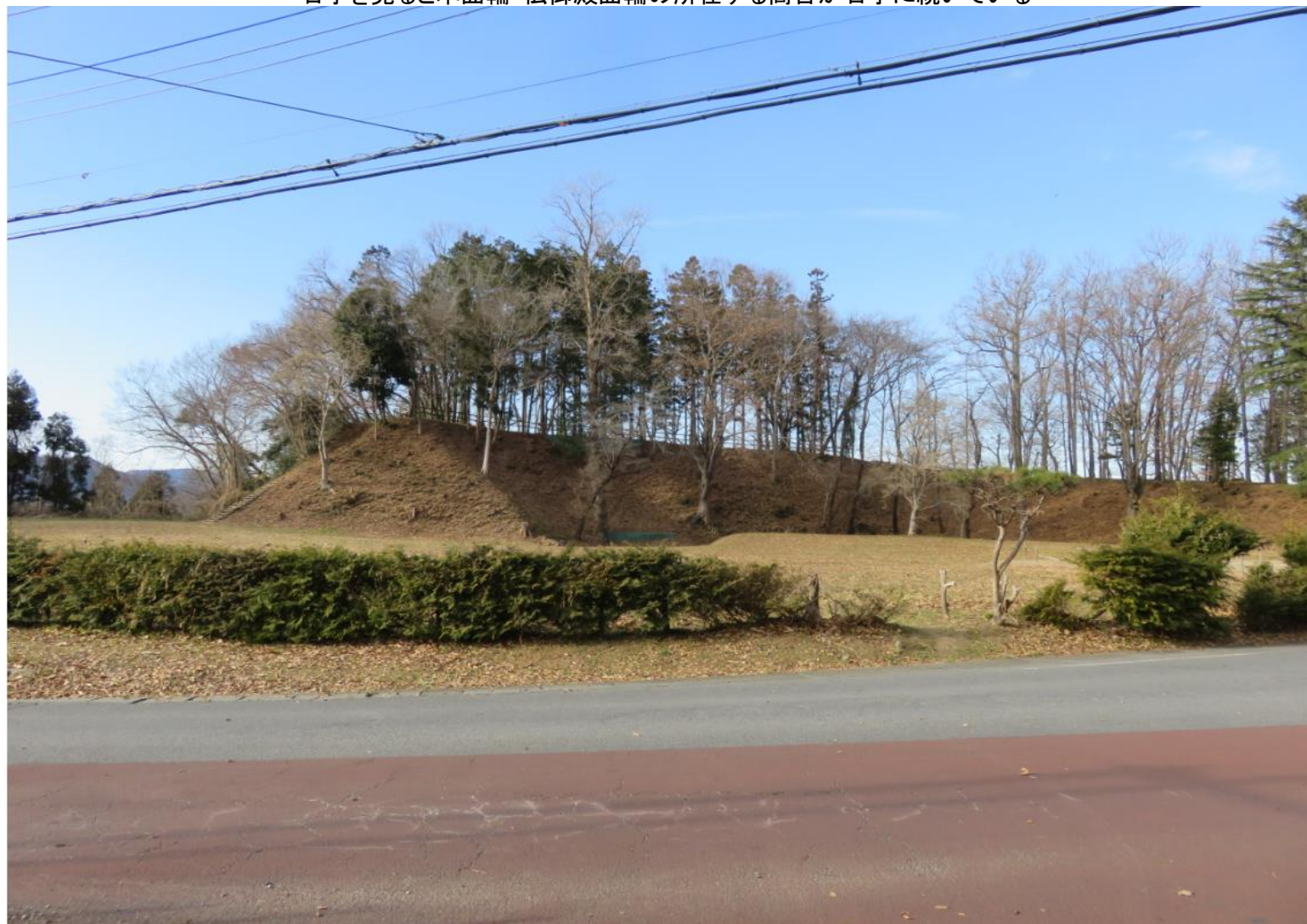
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



左手を見たところ/城山稲荷神社への行き先表示があり、こちら側が二の曲輪



右手を見ると本曲輪・伝御殿曲輪の所在する高台が右手に続いている



こんな塩梅/手前の低いエリア(その右手も含めて)は伝御殿下曲輪のようだ [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



背後を見ると、こちらに堀跡が続いている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



左手の土塁を見たところ/土塁の向こう側は伝御殿下曲輪



右手を見たところ/前方にも土塁が見える



その右手を見たところ



更に右手を見たところ/この辺りも二の曲輪に属するようだ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その端部から下を見ると深沢川が流れている



ここに「鉢形城の桜・エドヒガン」(右手の大木)の説明板があった

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



町指定天然記念物

鉢形城の桜・エドヒガン

指定 平成十六年三月一日

所在 寄居町大字鉢形字諏訪二七三八

エドヒガンは、バラ科の落葉高木種で、花期が早く、関東地方で彼岸の頃に咲くことから、この名前がついた。

このエドヒガンは、二本の幹が一旦伐採され、その株元から十二本の芽が成長したもので、樹高十八メートル、枝張りは、東西二十三・五メートル、南北二十一・八メートル、全体の根回りは六・五メートルほどある。枝は笠鉾状に広がり、見事な樹形を呈している。

なお、樹勢や聞き取り調査から、樹齢は百五十年ほどと推定される。

平成二十一年三月

寄居町教育委員会

正面は食い違い虎口となっている



左手を見たところ



こちら側の土塁はここで深沢川に沿って左手に折れている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



ここが食い違い虎口/ここを下って行くと、深沢川となる



その先の左手を見たところ/深沢川に架かる橋が見える/その更に先は外曲輪のエリア



そこで振り返って食い違い虎口を見たところ



その左手を見たところ/左手は土塁/右手が二の曲輪の切岸ということか/こちらの先も深沢川となる



左手の土塁を見たところ



右手の切岸を見たところ



そこを少し先に進んだところ/この先の直下が深沢川



こんな塩梅/前方の上部は外曲輪で、そこに建つ鉢形城歴史館が見える



そこで振り返って見たところ/左手が切岸、右手が土塁/正面も土塁で、その背後は伝御殿下曲輪のエリア



左手の切岸を見たところ/右手の大きな樹木がエドヒガン



右手の土塁を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その土塁の上から、先程の食い違い虎口の深沢川側を見たところ



深沢川を渡る橋の上で左手を見たところ



同じく右手を見たところ



振り向いて今下りて来た方向を見たところ



その左手を見たところ



同じく右手を見たところ



さて、前方の上部が外曲輪のエリア



そこで左手を見たところ



更に左手を見たところ/左手に深沢川が流れる



反対側から見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)

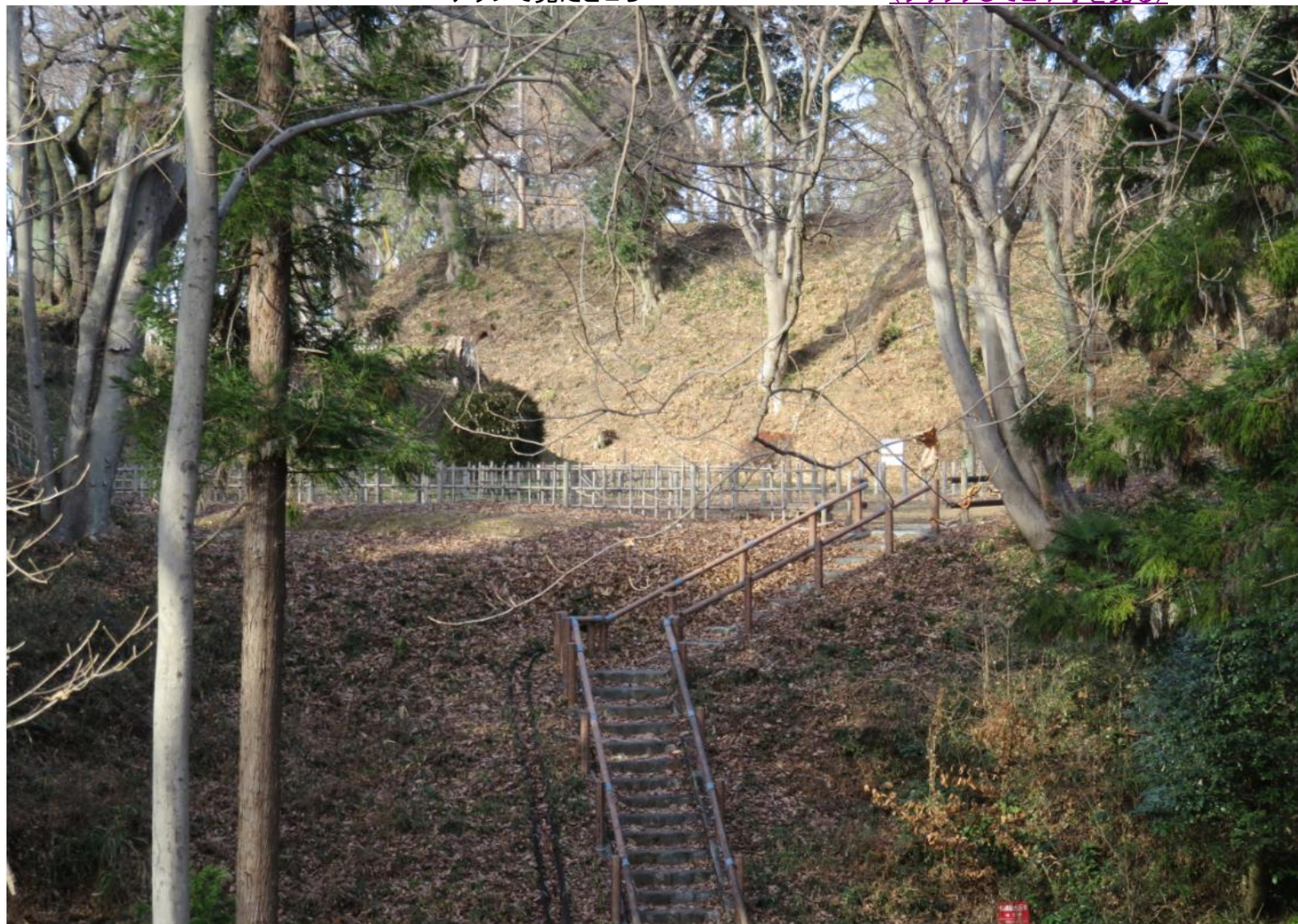


これは深沢川の対岸を見たところ/先程下りて来た階段が見える



アップで見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、ここが外曲輪のエリア/右手の建物は鉢形城歴史館



何やら堀跡のような溝が畝っている



これも堀であったのであろうか

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



前方には外曲輪の外周に沿って続く土塁が見える/ここで一旦、本曲輪へと戻ろう



さて、ここは二の曲輪と本曲輪ゾーンを区画する堀跡の右手、本曲輪の所在する高台を見たところ/その手前の下部は伝御殿下曲輪のエリア



高台に近づいて見たところ/この上部が本曲輪のようだ/そこは右手にウナギの寝床の如く続いているが、右手のエリアが伝御殿曲輪、右端が搦め手となり、笹曲輪に続いている



右方向を見たところ/この高台の足元にも堀が巡っている [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



そこで右手を見たところ/このエリアが伝御殿下曲輪/前方に先程の土塁が見える



その土塁に近づいて見たところ/右手が深沢川に下っている堀跡



その土塁を左手から見たところ



こんな傾斜で前方で左手に折れて続いている/土塁に囲まれた左手は伝御殿下曲輪のエリア



前方は、その土塁が左手に折れた先の土塁



アップで見たところ/土塁の向こう側下部は深沢川



さて、本曲輪の所在する高台の中央からやや左寄りにある登り口から上部を覗いてみよう



左手が一番高いエリアで、右手の搦め手に行くにつれて、少しずつ低くなっている



そこで左手を見たところ



アップで見たところ/堀になっている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



右手を見たところ



左手は石垣になっている



こんな塩梅



右手を見たところ



こちらはその上部/前方に東屋が見える



こちらは左手の上部/右前方に石碑が立っている



さて、ここは本曲輪の所在する高台の中央からやや右寄りにある登り口 [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



ここから上部を見てみよう



左手が高台の一番高い方向で、右手が搦め手から笹曲輪へ向かう方向



左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



左手に標柱が立っている



「伝御殿曲輪」とある/ということは、この辺りが伝御殿曲輪で、左手の高い方向へ行ったエリアが「本曲輪」ということなのか



左手に進もう/この辺りは伝御殿曲輪らしい



そこで左手を見たところ



振り返って今登って来た所を見たところ/曲輪は前方にも続いていて(そこも伝御殿曲輪か)その先に行くと搦め手となっている



これは伝御殿曲輪にある東屋で、先程見えた東屋ということになる/説明板がある





鉢形城跡

鉢形城は、荒川に臨んだ絶崖上に位置し、南には深沢川があって自然の要害をなしています。

文明8年（1476年）に長尾景春が築城し、その後上杉家の持城として栄えました。室町末期に至り、上杉家の家老で、この地方の豪族であった藤田康邦が、北条氏康の三男氏邦を鉢形城主に迎え入れ、小田原北条氏と提携して北武蔵から上野へかけての拠点としました。

城跡は、西南旧折原村を大手口とし、東の旧鉢形村を搦手としています。本丸、二の丸、三の丸、秩父曲輪、諏訪曲輪等があり、西南部には侍屋敷や城下町の名前が伝えられており、寺院、神社があり、土塁、空堀が残っています。

天正18年（1590年）豊臣秀吉の小田原攻めの際、前田利家、上杉景勝、本多忠勝、真田安房守らに四方から攻撃され、三ヶ月の戦いの後、落城しました。

寄居町・埼玉県



振り返って、荒川を見下ろす/前方には鉢形城の支城、花園城跡が見える

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



そこで左手を見ると土塁が見える



こんな塩梅/白く見える標柱が立っている



「鉢形城本丸址」とあるが、これは本曲輪、伝御殿曲輪とどう違うのであろうか/まあ、鉢形城の中心部分ということには違いないのであろう
([クリックしてビデオを見る](#))



土塁の上に登って見たところ



反対側から見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、ここは東屋のある曲輪より高い方寄りの曲輪で、先程見えた石碑の立っている曲輪



これは田山花袋の碑/明治の文豪、田山花袋の漢詩碑で、武者小路実篤の筆で「襟帯山河好 雄視関八州 古城跡空有
一水尚東流」と刻まれているらしい [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これはそこから高い方を見たところで、前方で明らかに一段高くなっている/向こう側が本曲輪ということなのか
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これは振り返って東屋のあった曲輪方向を見たところ



さて、ここが一番高い部分/周辺に土塁が回っている/このエリアが最も重要な曲輪ということのようだ



石碑のあった一段低い曲輪の方向を見たところ



その曲輪から見下ろした荒川

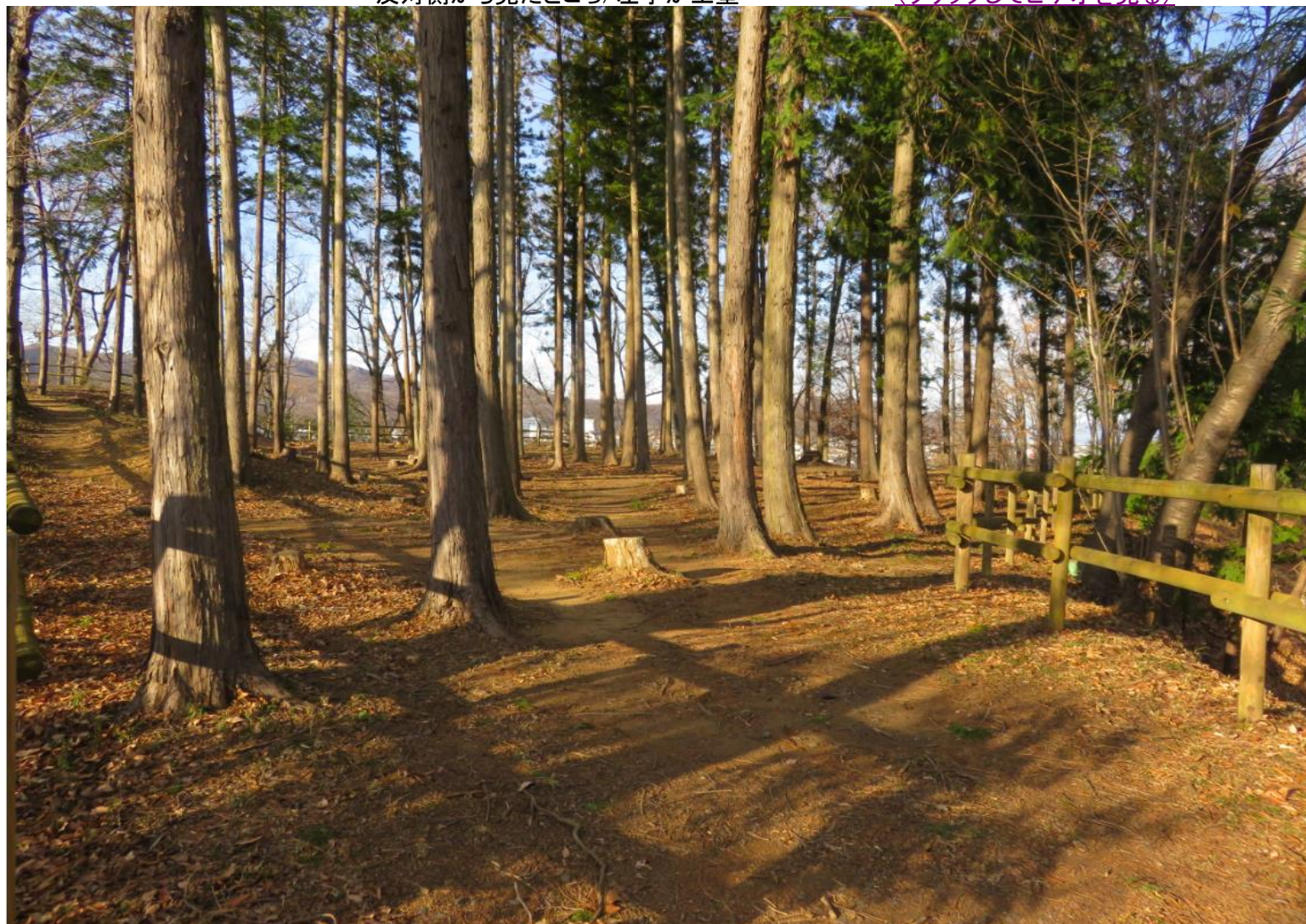


振り返って右手を見たところ/土塁が回っているのが見て取れる



反対側から見たところ/左手が土塁

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、伝御殿曲輪の標柱があった所から、搦め手・笹曲輪方向へ進んでみよう/この辺りも伝御殿曲輪のエリアなのか



少し進むと、一寸した土塁があった



こんな塩梅



これはその土塁上から先程の伝御殿曲輪の方向を見たところ



更に搦め手方向に進む/段々と地形が下がっていく

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



この辺りが搦め手の虎口か



この先に笹曲輪がある

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



左手を見たところ



右手を見たところ



この下が笹曲輪

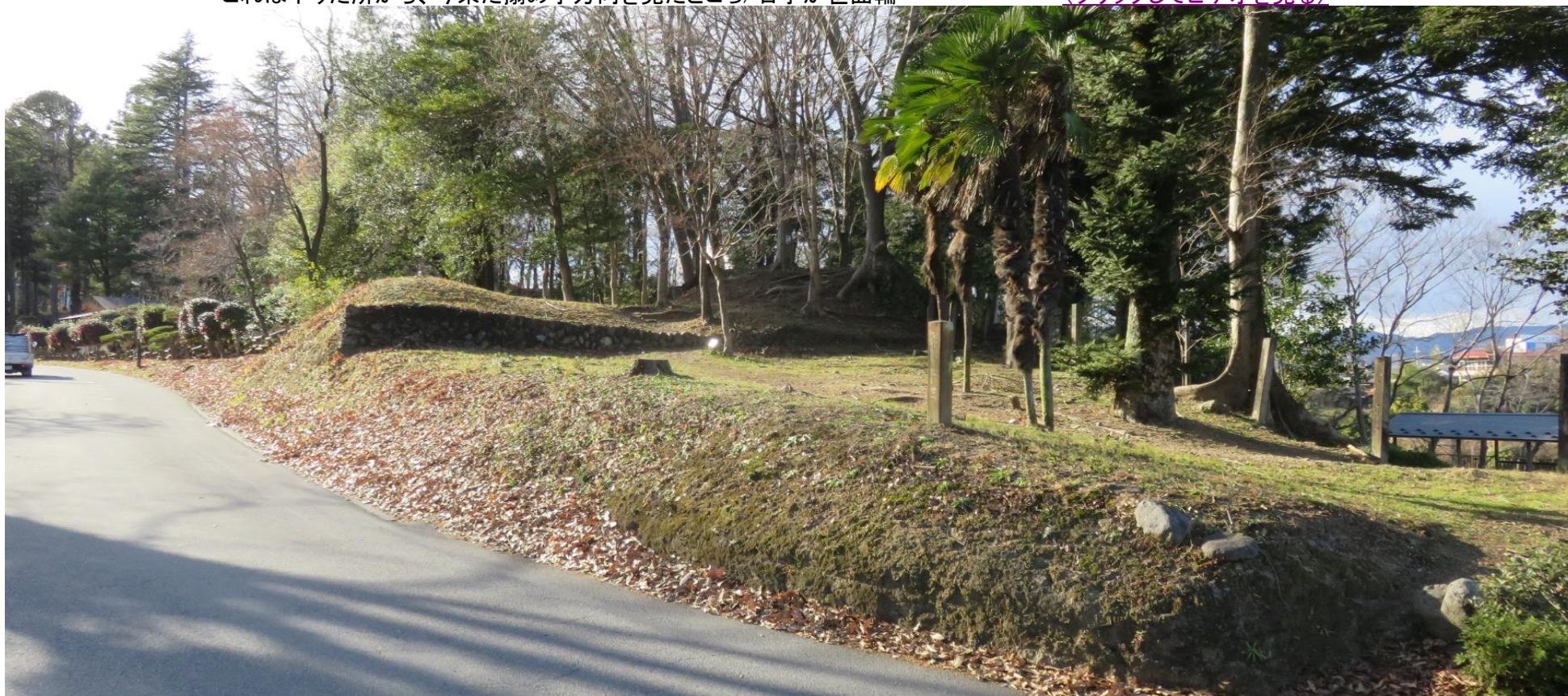


ここから下りていく



これは下りた所から、今来た搦め手方向を見たところ/右手が笹曲輪

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



ここにも石垣があった



これは搦め手脇で今来た方向を見たところ



さて、ここが笹曲輪/前方が搦め手

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





ここに当時の石垣が残っているようだ





正面がその石垣らしい



これは笹曲輪にある鉢形城跡のジオラマ



こんな塩梅



鉢形城の位置

寄居町は、埼玉県中央部やや北寄りで、荒川が秩父山地から関東平野に流れ出るところに形成された扇状地形の頂点付近に位置しています。

鉢形城は、北緯36度08分09秒、東経139度11分54秒付近に位置し、標高は最高点（三の曲輪）で122mです。荒川南岸の河岸段丘上に立地し、荒川の断崖と荒川に流れ込む深沢川の深谷に挟まれた天然の要害を巧みに利用して築城されています。

城の東方には鎌倉街道の赤浜の渡しがあり、また秩父方面への街道である秩父住瀬の釜伏峠を下ると鉢形城の正面に当たるように、交通の要衝に占拠しています。

城の三方を外秩父山地と上武山地の丘陵が取り囲み、城からの視界は良くありませんが、周囲の丘陵の主要な高台には物見台や狼煙台が置かれて、監視や防衛に当てられていました。

鉢形城の構造

鉢形城は、深沢川が荒川に合流する地点に立地しているため、地形上、東南北側は堅固ですが、西側は開けており防衛上の弱点となっています。そのため、城主の居館や上級武士の館のあった三曲輪から西側に何重にも深い掘切りを行い、二の曲輪・三の曲輪などの曲輪をいくつも造成しました。さらにその外側には寺院を密集させて寺町とし防備を厚くしました。

大手の位置は、城の西側で、城の拡張とともに移動しましたが、最終的には現在の諏訪神社の南側付近にあったと考えられています。

各曲輪は、堀と土塁で囲まれるほか、主要な出入口には方形の馬出を備えており、曲輪ごとに郎将が定められ管理をまかされていました。また、城の外側は周囲の小河川を上手く取り込み、水堀としていました。

深沢川の南側には、後に城を拡張して外曲輪を造成し、下級武士の住まいなどとしたほか、さらにその南側に城下町を形成し、城の守りを兼ねさせていました。

鉢形城地形模型

縮尺：250分の1

中央を縦に流れるのは深沢川/右手は荒川/それに沿って下から笹曲輪・搦め手・伝御殿曲輪・本曲輪(その左手に伝御殿下曲輪)と本曲輪ゾーンが続いている/深沢川の左手は外曲輪
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



正面に石碑が立っている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



アップで見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その付近で反対側を見ると、土塁が見える



アップで見たところ/土塁の向こう側には深沢川が流れている



さて、ここは搦手橋/左前方が笹曲輪のエリア

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



左手を見ると、こんな石碑が立っていた



史跡鉢形城跡と四十八釜

ここは、国指定史跡鉢形城跡の搦手(からめて)である。鉢形城は荒川の断崖絶壁と急峻な深沢川の溪谷に囲まれた地形を利用した平山城で、戦国時代史を彩る屈指の名城である。築城時期は文明八年(一四七六)長尾景春説が有力である。その後関東管領山内上杉氏を経て永禄年間に北条氏邦が入城し、天正十八年(一五九〇)六月十四日豊臣秀吉軍に開城された。

城の内堀として重要であった深沢川は今も尚兩岸より断崖絶壁が迫り、灌木天を覆い溪谷の姿を止めている。激しい溪流は谷底の岩盤をうがち幾多の淵をつくり、いつのころからか淵を釜と呼んで「四十八釜」と総称され、現在町指定名勝である。代表的な「船釜」は水深三メートルを越え「艦ノ滝」が落ち込む幽谷美に満ちた淵である。尚、古くは当地域は「教釜ノ庄」と呼ばれ語源を深沢川の釜に求める伝承が今も残されている。

平成八年三月吉日

寄居町 寄居町教育委員会
昭和七年四月十九日指定

題字

埼玉県議会議員

石渡 勲

書

教釜四季報

森田佐久

撰文

その更に左手を見ると土壘状のマウンドが見える/これは馬出しのようだ



少し退いて見たところ/右手が馬出し



これはそこで左手を見たところで、正面の辺りが長久院跡のようだ



その左手を覗き込むと深沢川が流れている



さて、この右手の道路に入って馬出しへ近づいてみよう/左手には墓地のような石造物が見える

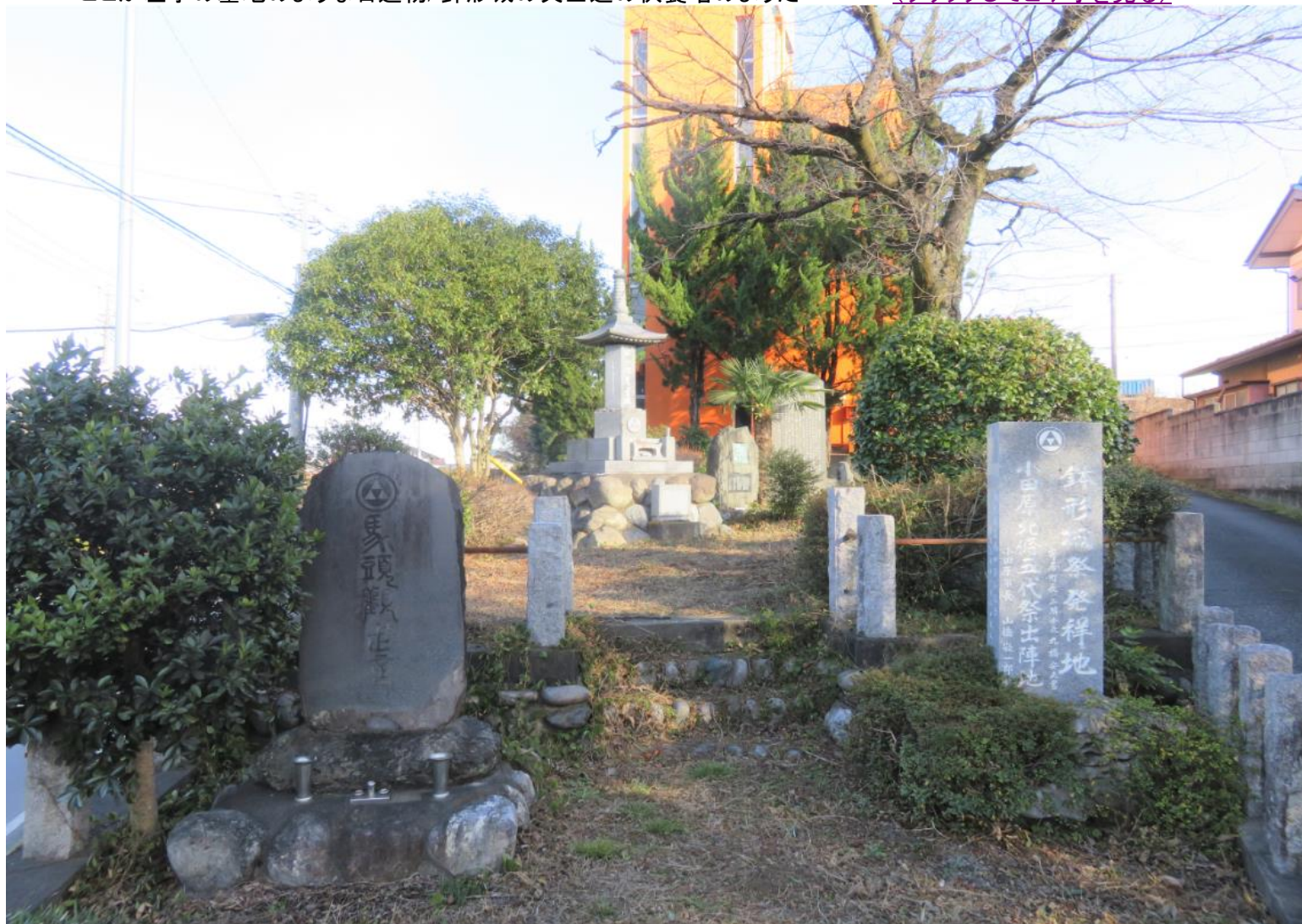


そこで振り返って、前方に長久院跡のエリアを見たところ



ここが左手の墓地のような石造物/鉢形城の兵士達の供養塔のようだ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





針形城祭発祥地
奇祭町長三郎公九橋安天書
小田原北條五代祭出陣地
小田原市長 山橋敬一郎

北条氏の家紋が入っている





こな塩梅



さて、右手の道路を入れて行くと、馬出しが見えてきた



こんな塩梅



民家が迫っている



別の角度から



こんなものも



ここが馬出したが、私有地になっているようで、これ以上は入れない



これは別ルートで馬出しの反対側に出たところ/前方右手が馬出しで、堀が巡っている/左手は外曲輪



中央の堀が手前で右手に回り込んでいる



右手の堀を見たところ/左上が馬出し



外曲輪から堀を見たところ/右手が馬出し

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これは外曲輪から堀越しに馬出しを見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、これは左手の外曲輪/ここから深沢川(右手)に沿って鉢形城歴史館のある所まで続いている
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



こんな形状の所があったが・・・



その辺りから馬出し方向を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



鉢形城歴史館方向へ進む/右手が深沢川



前方に土塁が見えてきた



そこで振り返って馬出し方向を見たところ



さて、これがその土塁

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



土塁の左端を見たところ/ここで切れている



左手からそこを見ると、ここは食い違い虎口になっている/当時は右手にも土塁があったのだが・・・



そこで左手を見たところ



土塁の左手は当時の堀跡



これは食い違い虎口の右手を見たところ/正面に馬出し方向に続く土塁があったのだが、削平されてしまっている/右手は堀跡



その左手に広がる外曲輪を馬出し方向に見たところ



そこで左手を見たところ



その左手を見たところ/窪みがあるが、堀跡のようだ/前方下は深沢川



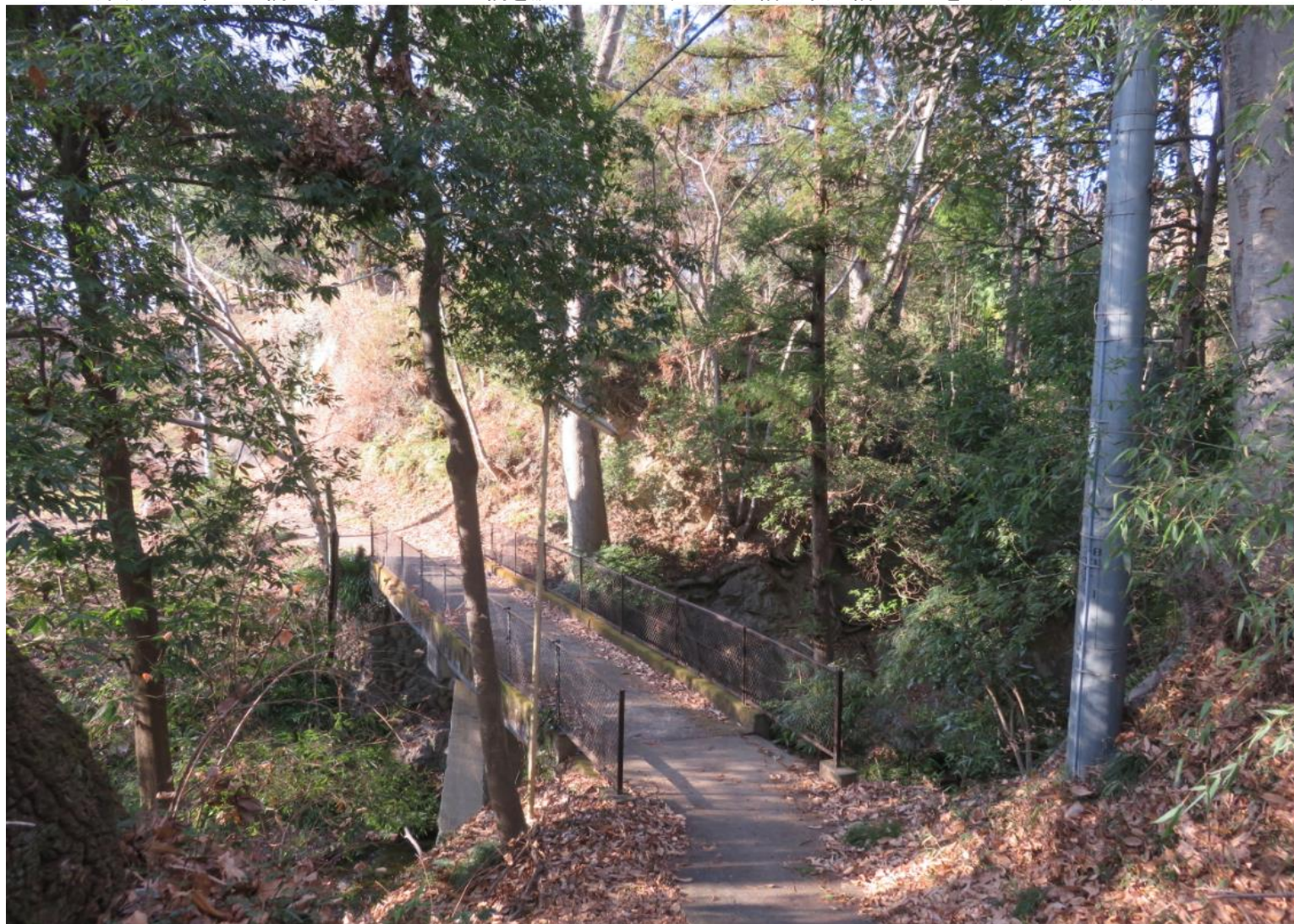
更にその左手を見たところ



窪みに沿って深沢川の方角に下って行く



深沢川に架かる橋が見えてきた/この橋を渡って進むと、三の曲輪と本曲輪ゾーンを区画する堀跡の所に出る



橋の上で右手を見たところ



同じく左手を見たところ/左上は外曲輪



さて、先程の土塁の上を更に鉢形城歴史館方向へ進むと、標柱が立っていた





その先はこんな感じで折れを伴っている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



左下から見たところ/土塁の左手は堀跡/右手は外曲輪



振り返って食い違い虎口があった方向を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その近くにも標柱が立っていた/前方が土塁で、手前は外曲輪



[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その土塁を左手から順にアップで見たとこ



その右手



更にその右手

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その右端に行くと土塁が切れている



反対に堀跡側から見たところ/前方に見える建物が鉢形城歴史館



そこで右手を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



土塁の端部を見たところ/当時はこの左手にも土塁が続いていたと思われるが、現在は残っていない/この部分は出柵形虎口
であつたらしいが…
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、この通りは連雀小路/前方右手が鉢形城歴史館入口



こちらは新小路



その先の殿原小路



こちらは鉄砲小路か



ここは鍛冶小路と思われる/外曲輪の外側に、住民が取り込まれて、城下町が形成されていたようだ



参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coccan.jp/011saitama/168hachigata/hachigata.html>

<http://yogokun.my.coccan.jp/saitama/voriihati.htm#hatigata>

<http://www5.plala.or.jp/tutinosiro/saitama.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/hachigata-jyo/>

<https://blog.goo.ne.jp/gtomita/e/d483cadffb7cf5972c9ba3482f49cfe9>

<http://www.siromegu.com/castle/saitama/hatigata/hatigata.htm>

<https://ameblo.jp/castle-manabu/entry-11413504818.html>

<https://www.bus-sagasu.com/blog/21160/>

<http://www.zephyr.dti.ne.jp/~bushi/siseki/hachigata.htm>

